

STAGE+を楽しむ(75)(HP 収載)
—クライバーのブラームス交響曲第2番—

1. 始めに

前報(74)に引き続き、STAGE+のクライバーが指揮するブラームスの交響曲第2番の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、クライバーが指揮するブラームスの交響曲第2番の演奏を選びました。

クライバーが指揮するブラームスの交響曲第2番のライブ映像

ウィーン・フィル

収録日: 1991年10月7日

2024年1月1日までの期間限定

名匠カルロス・クライバーがウィーン・フィルハーモニー管弦楽団を指揮したブラームスの交響曲第2番のライブ収録です。クライバーは極端にレコーディングを避けたことでも有名で、映像はさらに貴重なものとなります。綿密なリハーサルでも知られるクライバー。アンサンブルの完璧さはもちろん、ウィーン・フィルと共に紡ぎ出すその音色は品格があります。また音楽のつくりは重厚でありながらも、旋律の扱いなどはとても自然で心地よく、美しい指揮姿も魅力的です。

演奏:

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

指揮:

カルロス・クライバー

曲目:

ヨハネス・ブラームス 交響曲第2番ニ長調 Op.73



3. 試聴の経過

かのクライバーがウィーン・フィルハーモニー管弦楽団を指揮するお馴染みのブラームスの交響曲 2 番とあって興味をもって聴き始めました。

上記の解説にあるとおり、重厚でありながら、ウィーン・フィルハーモニーの美しい旋律と和音が引き出されており、ブラームスのロマンチズムがあふれています。

クライバーの指揮は非常に分かりやすく、緩急をつけたスケールの大きい、そのときどきの音楽の表情の流れを紡ぎ出すように指揮の所作が行われています。終演後の聴衆の熱狂的な歓声も収録されています。

1991 年の収録ですが、音質はかなりよく、ウィーン・フィルハーモニーの音がかなりの程度再現されています。



4. まとめ

以上の STAGE+配信は、追加の LAN iSilencer の効果も加わって、クライバーがウィーン・フィルハーモニーと紡ぎ出す、ブラームスのロマンチズムが表現されています。

以上